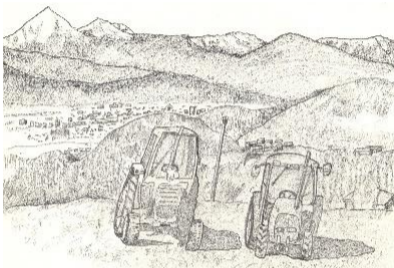


多面的機能支払交付金制度

農村地域の少子高齢化および過疎化等により、それらの地域の共同作業が困難となり、農業に関する共用の設備の維持管理に支障が生じ始めている。また、そうした共同作業が困難となることにより、農家の負担が増加することも懸念されている。このため、従来から行われている農業者等のその種の共同作業に対して、国および地方自治体が資金を援助することとなった。

農業者および地域住民等は、グループ（活動組織）をつくり、活動計画書を決定する。グループはそれをもとに市町村と協定を結び、共同作業を行う。それらの作業に対して、協定で定められた農用地の面積に応じて、国および地方自治体から交付金が支払われる。(ウィキペディアより)



環境を守る会は、H26年に

- 農地維持支払
- 資源向上支払(共同)
H27年には
- 資源向上支払(施設の長寿命化)
に参加。

〈百瀬会長〉

今年度はこの交付金制度の第2クルー(5年ごとの2回目)最終年をむかえます。今後とも我々が住んでいる緑豊かな中山地区の環境保全に役立て、後世に残していきたいものです。

多面的機能支払交付金制度

開始一〇年迎える

中山地区総額六五〇〇万円の交付

多面的機能支払制度が国の施策として、法制化されてから今年満一〇年。「中山の環境を守る会」は令和4年までに総額六五〇〇万円の交付金をつけ、

- 農地法面の草刈り
- 水路の泥上げ
- 心び割れ補修
- 農道のくぼみ補修
- 鳥獣害防止対策
- 花の植栽

の活動支援にあてられました。老朽化が進む水路、農道、ため池など施設の長寿命化のための補修・更新工事は1000力所を超える件数となっております。(下記に工事例)

中山地区の皆様
新年を清々しくお迎えのこととお喜び申し上げます。
平素は「中山の環境を守る会」の活動に格別なご協力を頂きありがとうございます。
今年の干支の「卯(う)」は茎や葉が大きくなる状態を表していて植物が若々しく、すくすく育っていくイメージで飛躍、家内安全といった意味があるようです。
皆様にとって本年がより一層充実した1年になりますよう心よりお祈り申し上げます。
環境を守る会 会長 百瀬勝雄



令和3年度 役員総会 議事録
令和4.3月26日

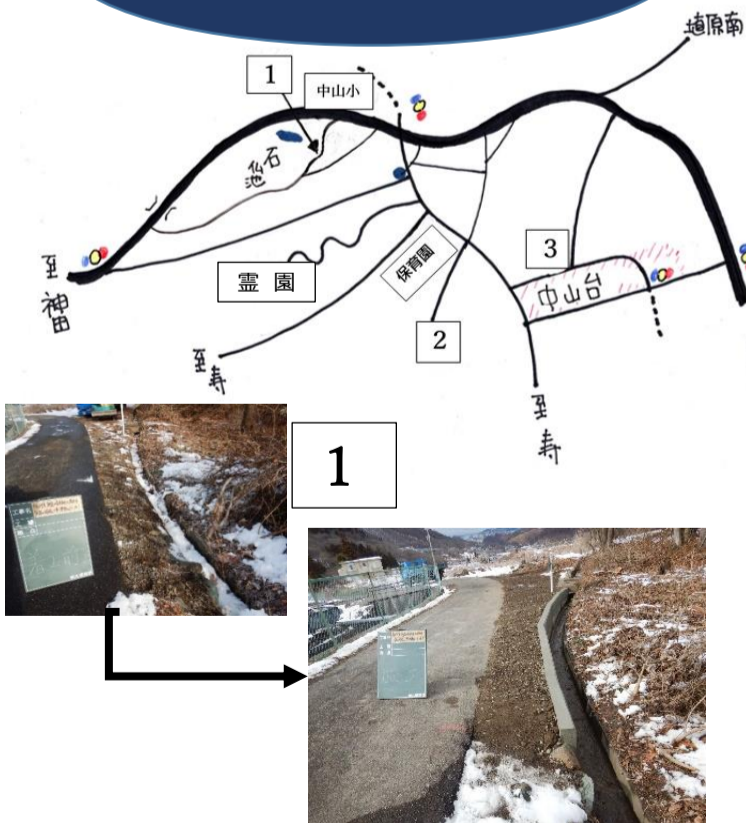
- 農地維持・資源向上(共同)活動
 - ・農地維持交付金 187万 1,000円
 - ・資源向上(共同)交付金 125万 1,306円
 農業環境の維持、自然環境の向上活動に取り組みました。
延べ活動時間 4000時間
活動費 274万円



- 資源向上(長寿命化)活動
418万 4,072円の交付を受け、
・業者による水路の補修など9カ所
・会員による水路の補修など4ヶ所
約 365万円を充て、次年度への繰り越しは計約 150万円。
- 令和4年度事業計画(見込み)
農地維持交付金 187万 1,000円
資源向上(共同) 125万 1,306円
資源向上(長寿命化) 420万円
の交付金を見込み、事業および予算が計画され承認されました。

長寿命化工事例の紹介

- 1 市道沿いの水路壁嵩上げ工事
- 2 坪ノ内地区水路際石積畦畔崩れ対策・コルゲイト管施設工事
- 3 千石沢川への流入部 水路の補修・水路際側面及び畦畔の補修



お知らせ ● 拡大役員会 2/25(土) ● 役員総会 3/25(土)
どちらも19時から 土地改良区会議室

「みんなで草刈り」

DVD 視聴研修会

「いまさら草刈り講習？」という声も聞こえてきそうですが、案外セオリーを無視して我流でやっているのではないのでしょうか。



会では昨年(8/18) DVD 多面的機能

支払「みんなで草刈り」(農山漁村文化協会)を視聴。草刈り機の扱い方、体の向き、法面での草刈り、水路がある場合やない場合での違いなど「ほー、そうなんだ」と思える説明、ほかに法面を密に覆い雑草を抑える「グラウンドカバープランツ」の実例。イワダレソウや高麗芝、あるいはヒガンバナを植えて景観をよくする取り組みなどが紹介され「なかなかいいDVDだった!」の声が聞かれました。



中山間地と平坦地 それぞれの悩み

飯山市よりの9名迎え

意見交換会開催

交換先に同じ規模の中山を希望



昨年11月20日 飯山市の「下木島農地・水保全会」の会員9名を迎え、意見交換会が行われ、中山は三役(百瀬勝雄会長 丸山孝昭副会長 小笠原力男会計)が対応しました。場所は土地改良区会議室。

下木島地区は昭和40年代に基盤整備された平坦な水田が広がり、水路は集落内を張り巡らされて、水利がよく、屋敷周りの水田は生産調整以降、主に畑活用されています。

近隣地区との管理・費用分担の複雑さ
豪雪地帯であるため冬の施設管理が大変である
などの現状が出されました。

意見交換後、下和泉地区の堤外水路老朽化工事(平成27〜30年250メートルのコレゲートフリーフォーム管敷設)現場を案内しました。



左 罾の仕掛けを説明する仙石氏。これは動物の重量によって罾が作動する。
右 罾の設置例。つないでおく樹は最低直径10センチ必要。

好んで捕獲しているのではない

農業と里山を守るために

有害鳥獣対策協議会の活動

環境を守る会の構成 銃での捕獲は制約が団体により「有害鳥獣対策協議会」があります。

日頃から山に入り罾を仕掛けシカやイノシシを捕獲する活動を続けています。

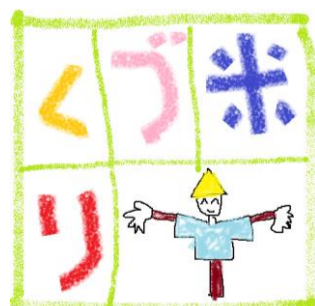
令和3年の捕獲数は
シカ 122
イノシシ 2

(ほかに狐、タヌキ、ハクビシンなども) 捕獲したシカ、イノシシは電気ショックで殺処分し、穴を掘って埋めます。

「食肉として利用できないか」と問えば「罾にかかった獣は暴れまわり、血が体じゅうにまわり、ジビエには適さない。捌くには大量の水を必要とし、手間がかかります。埋めざるをえない」

中山での活動は有害鳥獣から田畑を守るために防護柵が設置された平成22年から。

「ぜったいに近づかないでください。危険ですし、もし罾がかかっている場合、ワイヤーをちぎって、襲ってくる場合があります」
今から山に入ってくるよ、と仙石さんは出かけていきました。



中山の細い農道を歩きながら田圃を眺めると、その法面の高さや広さに改めて驚かされる。「作業の半分は草刈りせ」と聞くが、高く広い法面が続く。夏の盛りの草刈りはどれほどの汗を流すことか。



初夏の、とある日、用事で新潟に出かけたが、高速道路の左右に広がる田圃は平野を淡い緑に染めどこまでも広がっていた。大きな田圃は畔で仕切られているだけで法面は僅かだ。

その西、能登半島の北に「白米(しらよね)の千枚田」と呼ばれる棚田がある。山の上から、日本海の波をかぶる海面近くまで



中山の田圃の耕作の多くは農事組合が請け負っている現実がある。それも限界にきていると関係者は言う。一方で若者の中には農業をやりたいと移住を望むものもいる。空き家、休耕田を生かして活性化できないものかと切に願う。